

## 三井物産都市開発

# 東京建物の冷凍・冷蔵 物流施設開発に参画

三井物産都市開発（本社・東京都港区、土原伸社長）は、東京建物（本社・東京都中央区、小澤克人社長）と共同で、冷蔵・冷蔵物流施設「TILLOGI船橋南海神（仮称）」（千葉県船橋市）を開発する。三井物産都市開発にとって、初の冷蔵・冷蔵

物流施設事業への参画となる。計画地は京葉道路「船橋IC」から0・6km、東京都心から20km圏に位置し、都心をはじめとした首都圏全域への配送拠点として優れた立地。延床面積1万309㎡の4階建てで、2027年10月の竣工を予定している。

## 醍醐倉庫

## バザール「道々橋の蔵出し市」開催 子ども向けに「スーパーボールすくい」も

醍醐倉庫（本社・東京都大田区、醍醐正明社長）は4日、バザール「道々橋の蔵出し市」を開催した。荷主の滞在在庫を地域の住民向けにリーズナブルな価格で販売する恒例のイベントで、今回が22回目。当日は朝10時のオープンに合わせて、掘り出し物を探しにきた地域の人たちの長い列ができていた。

リサイクル技術を使った製品、地元企業の食品などをお得な価格で提供。醍醐氏と親交がある冷蔵冷蔵倉庫・総合食品卸の千代田も自社企画の商材を販売した。

同社は「物流を通して社会に貢献する」を企業理念とし、「お客様」「社員」「地域」の3つへの貢献を目指している。荷主の滞在在庫を倉庫で販売することで、地域と荷主の両方に貢献するバザールは、醍醐倉庫の企業理念に沿ったもので、毎年10月に開催。地域の人たちが楽しみにするイベントとなっている。

ゆきがや太鼓のパフォーマンス、タイムセール、大抽選会など、買い物以外にも1日中楽しめるように工夫し、今回は新たに子ども向けに「スーパーボールすくい」コーナーも設けた。地元B級グルメの「東京大田汐焼きそば」、焼き鳥、キッチンカーなど飲食ブースも設けられ、賑わいを見せた。このほか、「下町ボブスレー」も展示。来年2月に開催されるミラノ・コルティナ冬季五輪では、イタリア代表ボブスレーチームにそりを提供することが決まっており、子どもたちが展示されたそりに試乗。当日は「朝日小学生新聞」の記者が取材に訪れるなど、注目を集めていた。



地域の人が多く訪れた



「スーパーボールすくい」も登場

の人と接触する機会が限られている。バザールの運営を通じて、地域の人や荷主企業の担当者とも交流できることは社員にとっても貴重な経験となる。地域の人から感謝され、笑顔が見られるのは社員にとっても嬉しいことであり、バザールの運営を社員にも楽しんでもらいたい」と話している。